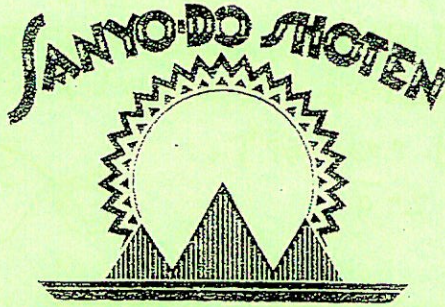


- 9月の本ベスト5
1. 松本大洋 x コロコロ
  2. 青の国
  3. ホールのまなこ
  4. talking about #4
  5. Coyote 星野道天 特撮

# 山陽堂だより 63

2014年10月神無月



山陽堂書店  
03-3401-1309

- 9月の雑誌ベスト5
1. エルシエノン ホワイト特集
  2. Vogue
  3. GINZA
  4. POPEE
  5. 家庭画報

野村  
岸恵子さん  
山陽堂で11月  
10月24日(金)  
17時  
『ハロのおばあさんの物語』の  
物語と女優の  
された、女優、作家、  
ジャーナリストとして活躍  
された岸恵子さんと  
セルジュ・フロックの  
会を17時から開催。  
ご希望の方はお電話で!  
03-3401-1309

セルジュ・フロック 個展 10月18日(土) ~ 11月1日(土)  
『ハロのおばあさんの物語』

セルジュ・フロックさんは、1956年フランスコルマル生まれの絵本作家。  
『TIME』の表紙と飾り、高級マンションのビジュアルを手掛けるアーティストです。  
ファミリー2Fでは、絵本の原画を展示、3Fではセルジュ・フロックさんの  
作品の展示販売をいたします。10月24日には、岸恵子さんと11月開催の

本、『ハロのおばあさんの物語』のことは千倉書房 17281484(株)

フランスで出版されて以来、20年以上にわたって子どもから  
大人まで読めつづけてきた絵本と、女優の岸恵子さんによる翻訳。  
ナキスの時代、言葉もわからぬハロに初対面暮らしして  
ユメヤ人の悪女から、ある日、苦楽を刻みだしたハロの顔と鏡と見  
「なんと美しいの」と嘆く。誰にも平等に訪れる老いや孤独を受け止め、  
人生を肯定する姿が心に残り得る。岸さんの翻訳、そして「あはれみ」  
と読むことができます。ファミリー2Fの原画と本とあつたのしめくた

10/4 雑誌「つるとはま」新創刊号 140426  
編集長 国戸編輯 Olive Konei 編集長 つとめ 編集制作担当 松家仁之  
アートディレクター 有山達也 kunel, talking about などのアートディレクション担当 編集長とつとめ

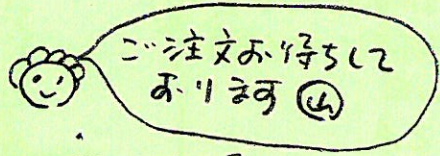
生まれるときはひとり。赤ん坊時代はひとと  
記憶にありません。気がつけば 己に親がいました。学校や会社で  
ともなうも同僚かできつた中では生きてきました。学校や会社は、  
わたしたちの一生の場所ではありません。最後の立ち立ちは、うまわたと  
同じ、ひとりです。学校や会社とはべつの、年上のひとの話を聞きた



分のいまを見直したり、二か方と考えた。

話を聞きたい。年上のひとは、ひとりであることとおそれる。  
このうちに尊敬する誰かについて、語り合えと少しはかろうもっている。  
よいま、と覚悟するのはまだはやい気がする。

でも、秋の季節はあと何回たろうと考えることはある。  
二か方か、じつは長いことよ、年上のひとは、ちよと笑って言う。  
年上の先輩の話を聞く小さな場所。  
それか、「つるとははま」です。



9/8 ~ 9/20 秋大洋+ニコラト・ルシー、出版記念 ハルビ展

漫画があつて本当に良かった。二かは大洋さんの言葉でよか、  
私は「大洋さんの漫画があつて本当に良かった」と思っています。  
子どもたち、若い人たちは このときときを経験が増えるといい。  
わたしは、しあわせなことに若いときから こういう体験が始め、  
いまには それと違いかけて続けたい子のかもしれないか。  
経験の場所か、そういうものを与えてくれたから、その場所には  
足を運ぶことの大切さか分かる。こういう場所があつてくれ、  
あり続けられ、とむうわしい。

★ 9/25 ~ 10/6 PILOT 新聞広告展 「万年筆から始まる物語」  
の展示では、PILOT 万年筆を使って書いてもらうつとをうつくりました。  
ものチャリートコーナー、ものかたリコーナー、短かくに原稿に書いて書くコーナー。  
これこれとくさんの言葉が集まりました。

11月の時間も言わすに 終電が増えた大学生の娘。親の矢張り世界を  
走り回っている姿か、とき出た母のよう。振りむいてはりしていい子。  
母さんも そうたつたから。

ケタイに届く毎日のメール。当り前のことかと思つていたけど。  
この展示を見たら、あつて愛おしいものかのように感じられた。親からの  
「夕飯は食べてくの？」のメール。友人からの「本調はどう？」と心配を  
するメール。あの時あの日に一時でもあつたか私を思つたメールでつづ  
くれたこと。今、私はそのことを感じてとむうわしい。

万年筆で文字を書くと心に文章を書こうに感じます。...ああ、万年筆。  
社会人になつたタインか、万年筆を買いました。誰かに贈る言葉や、  
心をめた本音、なつかか言えないか、しあつたことを伝えるときには、  
万年筆なら気持ちよくハッパを走らせることができる。そんな気持ちをにませ  
くわる広告で、僕は好きです。

子育てに忙しいと、とうとう天と大ケンカをしました。ふつと立寄られたけ  
なのに、心の底から涙かぼり、子供たちと天と仲良くありたい。  
11月、この年を暮らす。ありかた。